

## 第12回市民文化ホール建設委員会議事概要

日 時	平成 24 年 1 月 26 日(木) 19 時 00 分～21 時 00 分
場 所	福祉会館 3 階会議室 2
出席者	委 員 土井健司、徳永幸夫、井上 仁、齊藤 正、鈴木千明、鈴木 太、 高橋華子、高島澄江、土谷浩也、藤原達也、古川静枝、星川将一、 四国中央警察署 事務局 河村文化ホール建設推進室長 文化ホール建設推進室 石川、加地、福田
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	

### (協議概要)

項 目	協議概要
■会議の成立について	委員長：委員 25 名中、ただ今 13 名の出席により委員の過半数の出席を確認したので委員会は成立。
■委員会の公開、非公開について採決	委員長：本日の議題が「プロポーザルコンペ応募要領について」、「市民文化ホール建設基本構想について」、「企画運営フェーズの進め方等について」であり、多くの議題がプロポーザルコンペの経過報告であるため非公開にする要素がなく、本委員会は公開とします。
■プロポーザルコンペ応募要領について（事務局報告）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロポーザルコンペの名称</li> <li>・選定の方式について</li> <li>・設計者選定の基本的な考え方</li> <li>・実施スケジュール</li> <li>・提案書</li> <li>・選定委員会</li> <li>・選定方法</li> <li>・報償金</li> <li>・市民文化ホール設計プロポーザルコンペ提案にあたっての基本的事項</li> <li>・参考資料</li> </ul>
■「市民文化ホール基本設計	・積算、電気設備及び機械設備の担当技術者について、市外の協力事

<p>及び実施設計業務」に関する公募型プロポーザルコンペに係る変更について（四国中央市公告第73号）（報告）（事務局報告）</p>	<p>務所を認めることと、設備設計一級建築士の有資格者は電気設備又は機械設備のいずれかの担当技術者に配置すれば足りるとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構造担当主任技術者については、構造設計は安全性に直結し、大空間を有する本設計においては緩和することが適当でないため、当初どおり応募者自らが行うべき業務とした。</li> </ul>
<p>■質疑応答（応募要領）</p>	<p>委員：選定委員のそれぞれの分野や考え方も違うと思うが、第一段階審査は点数だけで決定するのか、それとも協議して点数により決めるのか、選考基準は？</p> <p>事務局：大きな方針として、第一段階審査は書類審査になる。ただし、選定委員個人の審査だけでは思い違いがあればいけないので、最終的には選定委員会で協議し5者程度を選定する。ただ単に点数をつけるということではない。</p> <p>委員：審査時に提案書はどの業者かは分からないのか？</p> <p>事務局：一切分からない。提案書に特定される文言があれば失格になる。</p> <p>委員長：応募要領についてどのような質疑があったのか？</p> <p>事務局：63件の質疑があり、質疑内容及び回答は市HPにて公開している。例えば、応募者が備える要件として500席以上の実績はホール以外で野球場や体育館でもよいのか、その他の応募資格について、市民文化ホールとひとづくり支援センターの合築が可能か、ひとづくり支援センターの駐車台数について、想定している駐車台数について、市道との連携について等である。</p>
<p>■市民文化ホール基本構想について（確認項目） （事務局説明）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後企画運営に関する協議を行うにあたり、基本構想の考え方について再確認しておく項目。</li> <li>→2つのキーワード（基本構想 P28） <ul style="list-style-type: none"> <li>「①産業と文化の融合した、文化交流工場」</li> <li>「②あなたが描く、キャンパスホール」</li> </ul> </li> <li>→市民文化ホールのコンセプト（基本構想 P29） <ul style="list-style-type: none"> <li>「産業と文化が融合し、人を育む、四国の真ん中キャンパスホール」</li> </ul> </li> <li>→運営形態・ソフト（基本構想 P43～48） <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営の基本的な考え方</li> <li>・運営組織</li> <li>・運営経費</li> <li>・運営についてのアイデア</li> <li>・貸館事業</li> <li>・維持修繕の考え方</li> </ul> </li> </ul>

<p>■企画運営フェーズの進め方等について（協議項目） （事務局説明）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業評価</li> <li>・市民文化ホール建設基本構想の項目を基に、協議項目としての事務局（案）を提示 <ul style="list-style-type: none"> <li>→第1回（企画運営フェーズ等の進め方等について）</li> <li>→第2,3回（事業について）</li> <li>○市民が集い交流できる事業とは何か考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在行われている事業と今後行ってみたい事業</li> <li>・コンセプトを具現化するためのソフト事業</li> <li>・交流体験を生む「しかけ」とは</li> </ul> </li> <li>→第4回（運営への市民参画について）</li> <li>○市民のためのホールとなるために、市民参画の方法等を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア団体の組織、育成</li> <li>・既成団体との協同</li> </ul> </li> <li>→第5回（利用しやすい利用形態・状況とは「設備編」）</li> <li>○施設配置、備品等利用しやすい環境づくりについて考える。</li> <li>→第6回（利用しやすい利用形態・状況とは「管理編」）</li> <li>○利用者が利用しやすい料金や管理体制を考える。</li> <li>→第7,8回（運営コストについて）</li> <li>○通常時の維持管理修繕や事業費について考える。</li> <li>→第9,10回（運営方法・団体について）</li> <li>○市民が継続して文化・芸術を享受でき、市民交流の場として活用されるための運営方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホールの舵取り役としての館長像について</li> <li>・運営方法について</li> </ul> </li> <li>→第11回（ホール運営の評価）</li> <li>○短期から中長期までの運営目標の設定や事業評価の方法を考える。</li> </ul> <p>委員長：資料の記述で設計フェーズは4月からで、企画運営フェーズは今日から始まっている形では。</p> </li></ul>
<p>■運営の概要について （事務局説明）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計に関する協議を行う設計フェーズと企画運営に関する協議を行う企画運営フェーズで考えている。</li> <li>→企画運営フェーズ <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営に関するそれぞれの検討項目を建設委員会で協議し、最終的に協議結果をまとめ建設委員会から市へ提案することを目標</li> </ul> </li> <li>→設計フェーズ <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内容等について設計者と協議し基本設計に反映させることを目標。</li> </ul> </li> </ul>

<p>■協議スケジュールについて（案） （事務局説明）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設委員会全員で建設委員会としての提案、検討と設計者からの提案、質問について協議</li> </ul>
	<p>→企画運営フェーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画運営に関する協議、基本毎月1回開催</li> </ul> <p>→設計フェーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設委員会としての提案、検討と設計者からの提案、質問について協議。月1～2回開催（状況により開催頻度が変わる）</li> </ul> <p>→企画運営フェーズと設計フェーズは基本的に別の日に開催</p>
<p>■質疑応答</p>	<p>○委員：無理やり企画運営フェーズと設計フェーズを関係付けようとしているのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計が始まればバーチャルリアリティによる協議も可能では。当初は設計者から毎月の提案は難しいと思うので、月1回の開催でなくてもよいのでは。</li> </ul> <p>○事務局：基本的には企画運営フェーズと設計フェーズは、別日開催と考えている。</p> <p>○委員：H27年3月に開館するのであれば開館の1年半前にはどのような事業をするのか決めていないと、そこへ向かって進めないのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開館の1年半前には運営組織が決まっていなければならない。あと1年半の期間しかないが、このスケジュールでは難しいのでは。</li> <li>・運営組織を決めないといけない。他ホールの事例や視察等、勉強会から始めないと上辺だけの提案では進まないのでは。</li> <li>・指定管理者に任せると十分なことは出来ないと思うので、今回は他の方法など具体的に考えないといけないのでは。</li> </ul> <p>○委員長：第9,10回の協議を先行して行うということか。</p> <p>○委員：組織づくりの前に第9,10回のホールの舵取り役としての館長像がポイントである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛媛県内の3施設の例から、初代館長にどのようなビジョンを持った館長を任命するかで、2,3代と館長が代わったとしても、その館の熱意・コンセプト・時代をみる視点・やるべき責任についての視点は絶対にゆるがないと考える。</li> <li>・組織づくりも大切であるが、既成団体とのすり合わせや、市民の声も大切である。むしろ一番基本となるが、館長は視野の広い方の選出を今からでも行ってほしい。</li> </ul> <p>副委員：基本構想策定時、第3部会の委員は運営形態を中心に検討しており、他の部会の委員より専門的な議論をしているので、企画運営フェーズの委員として移ってはどうか。基本構想の再確認、検討項</p>

目を毎月抽出していただき、何回かに1回は提案を全体会にフィードバックし検討する流れをつくれればよいのでは。

・運営に詳しい行政側から教育委員会、市民交流課の職員を各2~3名を建設委員会へ加え一緒に協議をすれば効率がよいのでは。

・事務局のスケジュールに合わせ教育委員会、市民交流課で資料を準備し、第3部会の委員と協議し意見をまとめる方が時間短縮になるのでは。

・企画運営フェーズを毎月全員で開催するより、2年前から携わっている第3部会の委員の意見を反映させるためにも、再度、力をお借りすることを提案したい。

○委員：副委員長の話だと、企画運営フェーズで検討する部会があり建設委員会で協議するとのことであるが、いつまで続けるのか。

○事務局：企画運営フェーズに専門部会を設ける認識は事務局としてなかった。

・建設委員会として、区切りとするのであれば設計フェーズ、企画運営フェーズで進めることになっている。

○委員：どの方針で進めるのか事務局ではっきり決めておかないといけない。基本構想策定委員の第3部会のメンバーは3人しか残っておらず、どこまで協議するのか難しく、組織形態として無理があるのでは。

○事務局：最後まで建設委員会は続き、設計フェーズが一部分重なり、最終的に建設委員会全員が企画運営フェーズに移行するという認識である。

・事務局としては以前の協議で、建設委員全員が企画運営フェーズに移行する話となっていたため、建設委員会に企画運営検討部会を設ける考えはなかった。

○委員：建設委員全員で最後まで協議するということか。

○事務局：建設委員会で協議し最後までいくという話になったのでは。

○委員：委員企画運営フェーズに全員移行するのは決まっていた。

・建設委員は建設するために集まっており、運営するために集まっているメンバーではないのでは。建設するために協議をしてきたが、運営を協議する委員はこのままでよいのかは別の話である。建設と運営とは違うので、委員を何名か加える必要があるのでは。

・最初に館長の選任、運営母体を協議する必要があるのでは。

・ビジョンを構築し市全体を見通し、文化をどこまで育てるつもりがあるのか、運営に関しては市レベルの話になるのでは。例えば、ビジョンを示して、JC、ひとづくり関係の方に参加してもらい、役割を提示するぐらい運営に関しては重要である。

・ホールを運営すると思うより、市を文化的にどう運営するか、一度組み立て直した方がよいのでは。

○事務局：基本構想がビジョンではないのか。

○委員：基本構想は建物側のビジョンではないか。

○事務局：基本構想には運営に関する項目も入っているので、新たにビジョンを構築することにはならないのでは。

○委員：建物に対してのビジョンはあると思う。

・基本構想はビジョンやソフトを加えた上で協議したものであって現時点で別の課題が与えられているのでは。

○委員：これからはホールをどう動かしていくか。文化・芸術をどのような心でつくりあげていくか、どういう心で接していくのか、課題が具体的になっているのでは。

○委員：基本構想は柱である。全市的に考えるということは、具体的に人や顔が見えてこないと運営できないので、運営する人を選び、運営する人にビジョンを伝えたり育成したり全市的に取り組む必要がある。

○委員：市全体のことを考えるには、建設委員会だけではなく、議員や行政側で大きな枠として考えることが必要ではないか。

・検討していただきたい項目として、この委員会とは別に四国中央コンベンションビューローを考えている。文化ホール、建設委員会、運営委員会、財団、観光協会、物産協会などを組織下におく四国中央市のビジョンをまとめる組織が必要では。そこで四国中央市をどうしていくか協議が必要ではないか。その中で文化ホールをどう運用していくか建設委員会で考える必要があるのでは。

・参考であるが沖縄コンベンションビューローがあり、プロ野球のキャンプ誘致、中国からのビザなしの沖縄旅行を世界に向けて行っている。これを機会に民の組織を考えていただきたい。

○委員：質問だが第9,10回の内容を決定するのは市なのか。第2~8回の内容は運営団体、館長像がみえないと協議できないのでは。

・指定管理者制度になった場合、協議した内容と違う方向に運営が進む場合もあるのでは。

・それぞれの場合の提言内容を協議しないと無理があるのでは。

○委員：基本的には2つのキーワードとコンセプトが市の方向性である。

・運営に関して方向性が決まった後に、どの団体を入れるのか協議するようになるのでは。

・企画運営フェーズで協議するのか、別委員会で協議するのか決めておけばよいのでは。

○委員長：最初に運営形態を決める必要があるのでは。

・事務局のスケジュールで議論すると時間内にやるべきことは終わらない可能性が高いと危惧される。

・第9,10回の運営方法・団体について議論していきたい。

・最終判断は市であり、委員会では指定管理者制度、自主運営、コンベンションビューローのような文化機能を担う組織ができたとするとうなるか委員会で描いておきたい。選択肢によって違ってくるが、市に提案した後に、より具体的に議論をしていくしかないのでは。

・運営に関するビジョンは建設委員会の仕事ではないので、本格的に議論するのであれば、市長に意見をいただく必要がある。

○委員：設計期間の終了と共に設計フェーズが終わるのであれば、企画運営フェーズも運営団体が決まれば役割が終わるので、完成まで企画運営フェーズが続く図は見直した方がよいのでは。建設委員会が運営していくのではない。完成の前からは運営は始まっており、大きな枠組みとして、例えば建設委員会や運営委員会の関わりが完成以後も続いていく考え方になるのでは。

○委員：企画運営フェーズが竣工まで見守るということでこの図になっているのでは。

・基本構想の内容で運営されているのか、見守るところまでは建設委員会の責任では。

○委員長：解散するのではなく、提言後も進行状況を建設委員会へ報告してもらい、モニターする役割と考える。

・運営方法・団体については、基本構想策定時の委員に主導してもらおうようお願いしたい。委員と事務局で次回の資料の準備をお願いしたい。

・文化図書課、市民交流課はオブザーバーで参加することをお願いしたい。

○委員長：庁内要望の時は縦割りすぎたのでは。そのような視点を持ち、お互い連携し議論すればよいのでは。

・館長の選任は重要であるが建設委員会でどう考えるのか、市長と協議をお願いしたい。

○事務局：委員長と相談したうえで対応したい。

○副委員長：館長（案）として外部、市内部からの選任など委員個々に考えがあると思うが、建設委員会は事務局に提言はできるが、任命権は市長にあることを認識しておく必要はある。

○委員：任命権は理解できるが、文化ホールの運営を成功させたいので、広い範囲で選任していただきたい。

・これまでに初代の館長が、後の館を性格付ける例を見てきているので選任については特にお願いしたい。

（閉会）

